

武清粉本

二十三

25
48

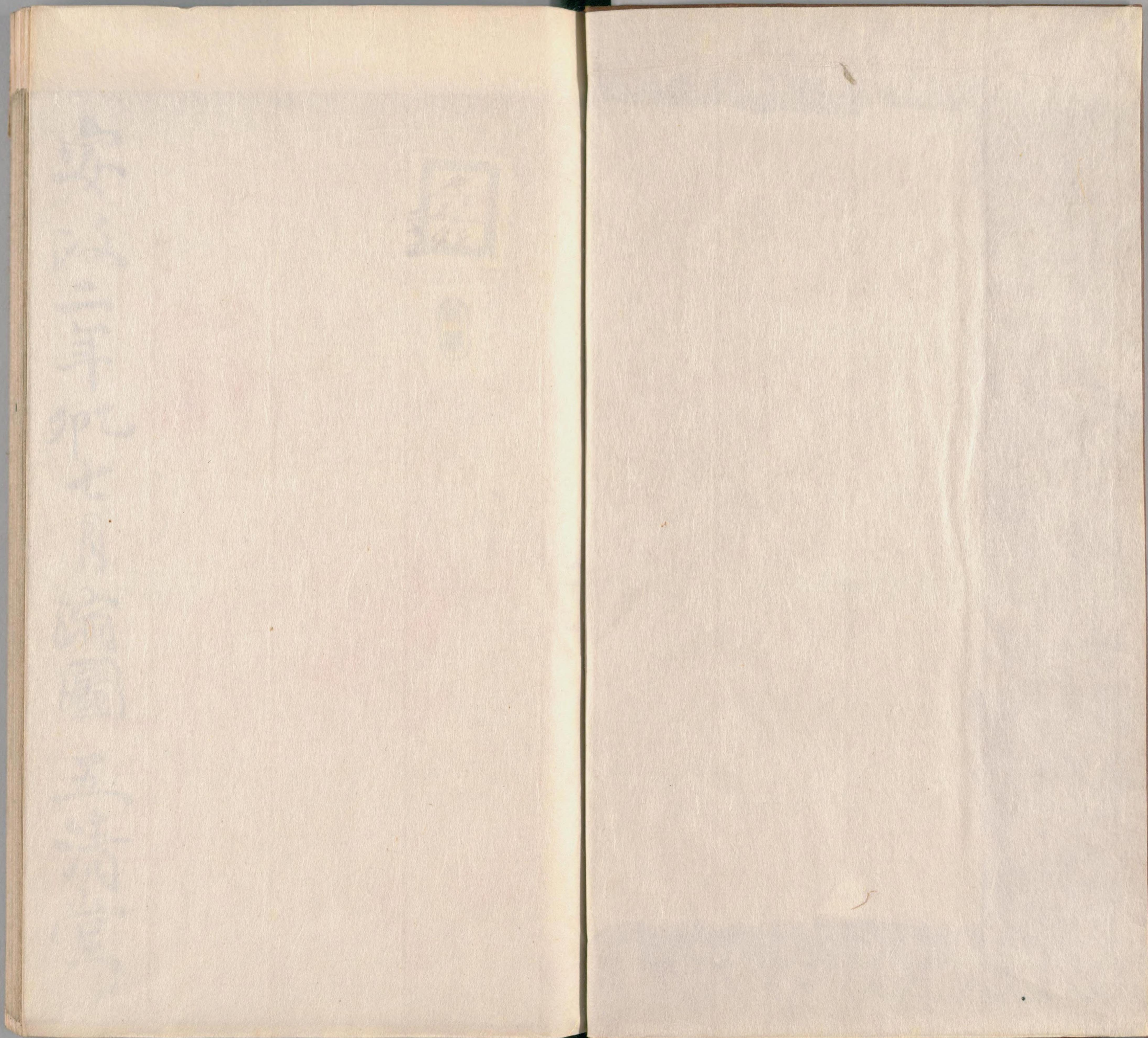
別圖

3-8
4-1



国立国会図書館 タイトル『武清粉本』 請求記号 寄別3-8-4-1

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『武清粉本』 請求記号 寄別3-8-4-1

ガラス使用

安政二年卯乙七月縮圖
五清堂





国立国会図書館 タイトル『武清粉本』 請求記号 寄別3-8-4-1

ガラス使用

成物 乙卯七月十日 茶工 正

來歲偶值元日甲子為拜寫
天明丁未暮

應舉





乙卯七月十七日

茶屋

茶屋

乙卯七月十七日



乙卯七月十七日

茶屋



乙卯七月十七日





和歌山県立美術館蔵

浮竹の節とて月廿四の夜半



和歌山県立美術館蔵

和歌山県立美術館蔵
昭和二十九年六月十九日



横五丈七寸五厘三六分



平七月廿五日

平七月廿五日

横幅雪枯木

啾々鳥之畫也

皴笔亦常信真

亦未至疑者也

横川法依

雪
皴
筆
法
依

雪下野々島山圖 狩野主馬藤原尚信

箱書附作木文山書

毫



藤原尚信

雪下野々島山圖
景乙外七日土屋茶屋

武清粉本
大正三年七月廿一日



武清粉本



武清粉本
大正三年七月廿一日



大少將吉村圖

神物之印七月廿日 幸甚幸甚

神物之印七月廿日
幸甚幸甚
おのゝ歌



武清粉本

武清粉本



武清粉本

武清粉本





雲々屋

河内守 高橋

高橋 同

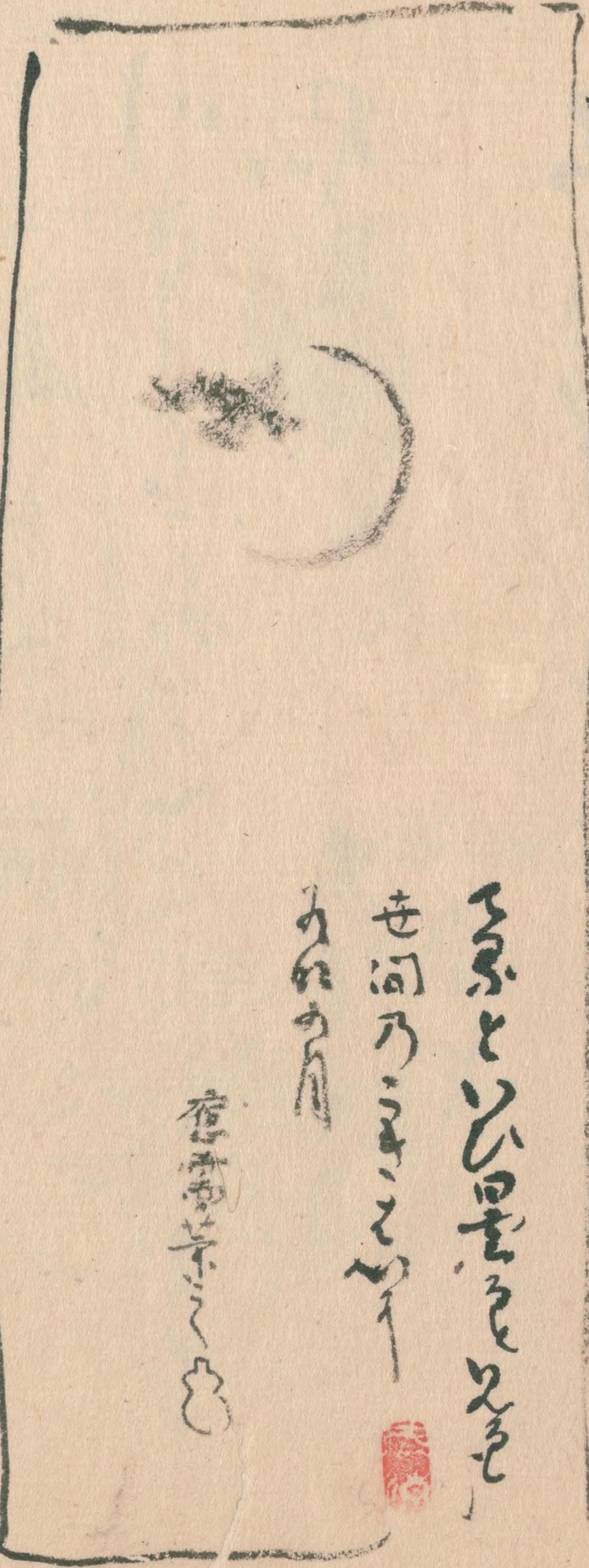
河内守 高橋



高橋

同



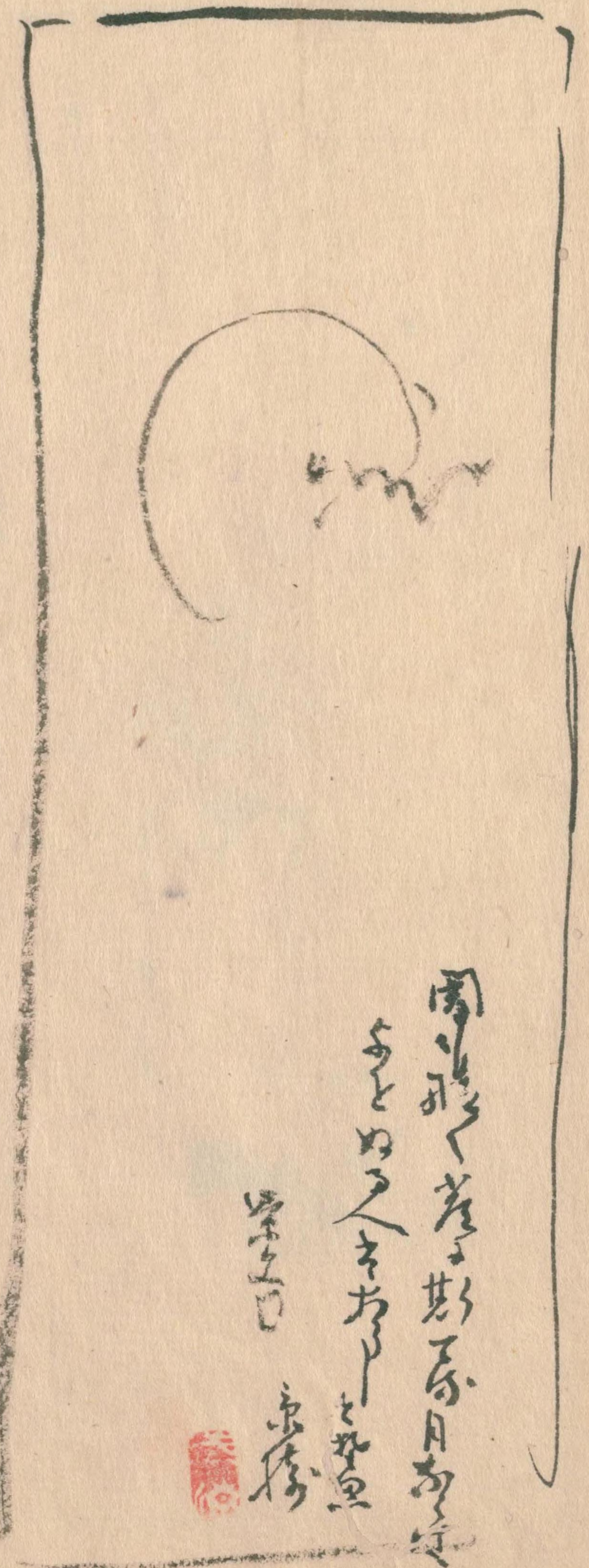


七卯 月 四日

南 斎 堂

系とんじりまをりて
世間乃こまことり
のりあり

宿 野 山 寺 へ



周 形 ぐ 考 斯 系 月 あり
と ぬ 人 ち あり

宗 正 口

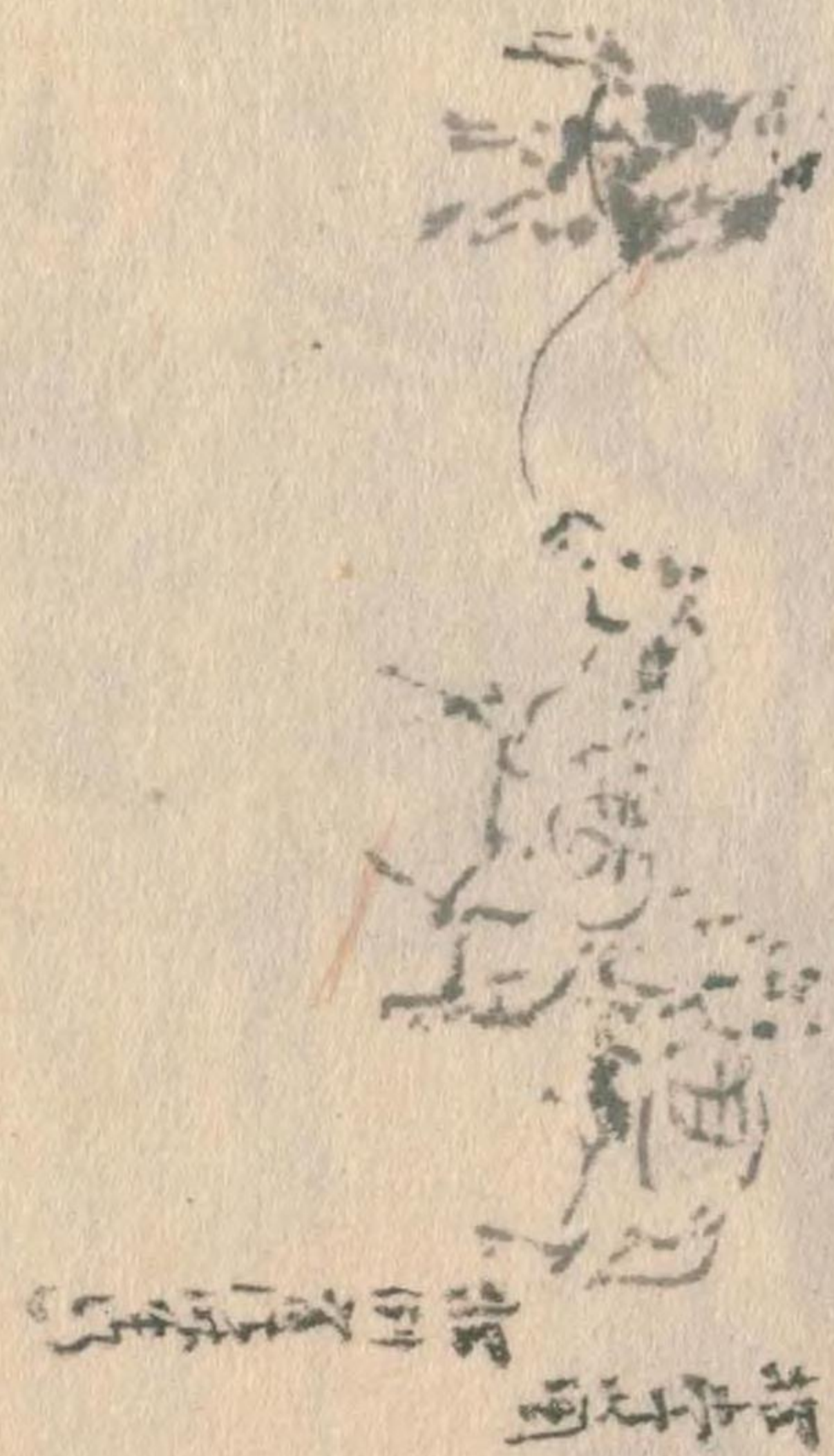
宗 正



武清粉本

右海花宗持

何人ニ在道
其年ノ如ク
乃終十ニ至
物ノニ至ル
上馬道ノ如ク
一ニカク
ヤ一ニ至ル
カ



武清粉本

武清粉本

西行





武清粉本



竹二節 乙卯八月三十日 武清粉本



時鐘

竹二節 乙卯八月三十日 武清粉本



武清粉本 卷之三十一



武清粉本 卷之三十一 乙卯秋九月十日 武清粉本

石頭大小倉剛彦
天地之間唯一身
世深世情都不言
明處明却自真
大道大和尙真儀
溪州太守明地在士請
明侯甲戌老及下游
返耕北身行年八十





河内山本・印あり
正徳九年十月廿七日
松平定房

河内乙卯九月廿七日
松平定房



松平定房



三幅善治 乙卯九月十九日

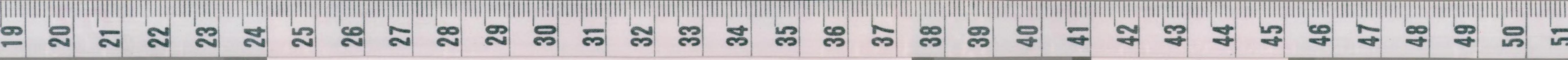
三幅善治
印



三幅善治 乙卯九月十九日

三幅善治
印





五福

書 洪範 以福之急緩為先後

○壽・富・康寧

無患難

○攸好^{ロハ}德樂其道

○考終命^{ナシ}

順受^ヲ其正

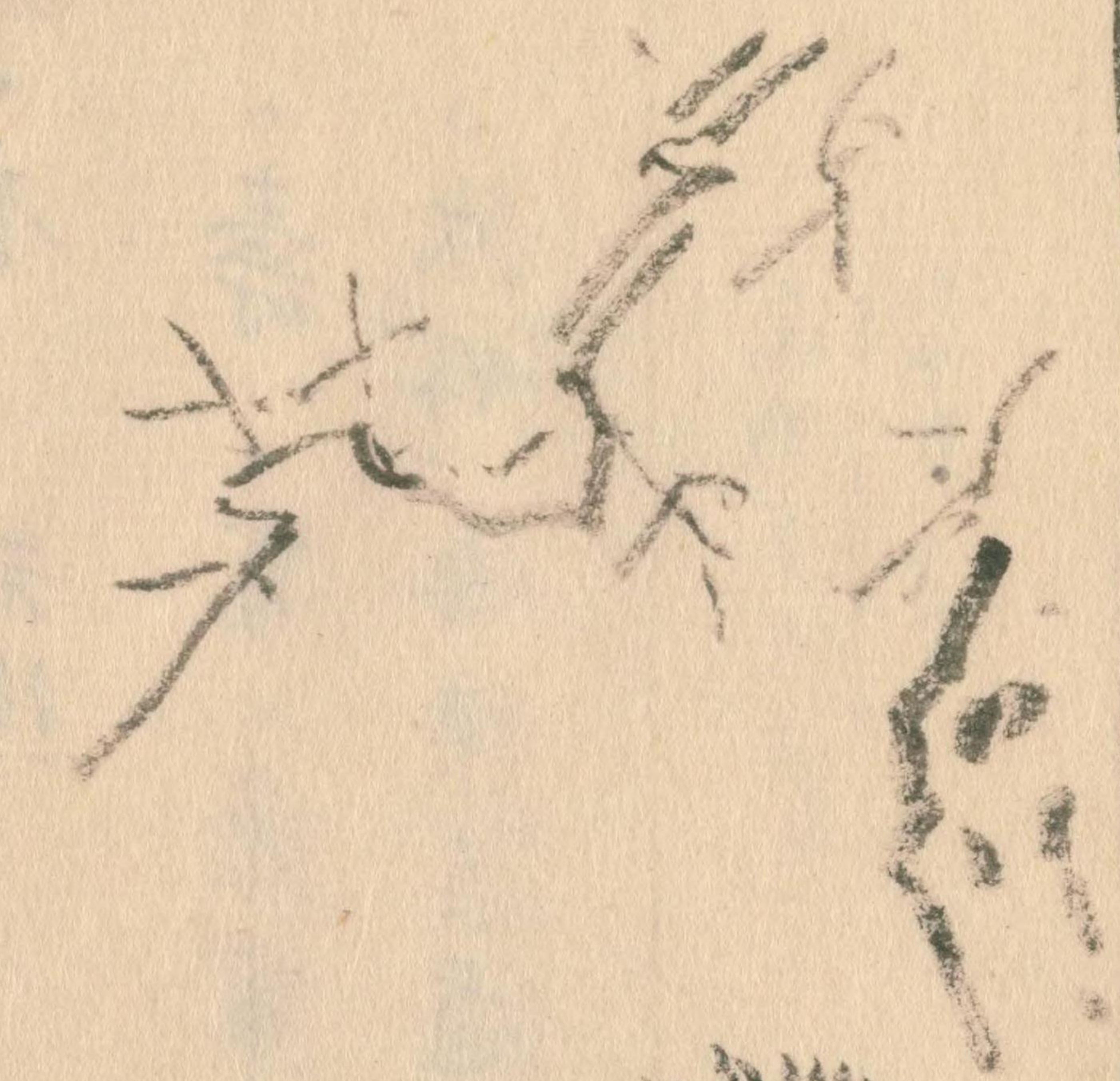
口ナリナラ
カニナラ

獨出臨國^ヲ中^ニ卯^ノ女^ノ子^ノ常^ノ為^ニ





堀江屋
寛文九年十月廿九日



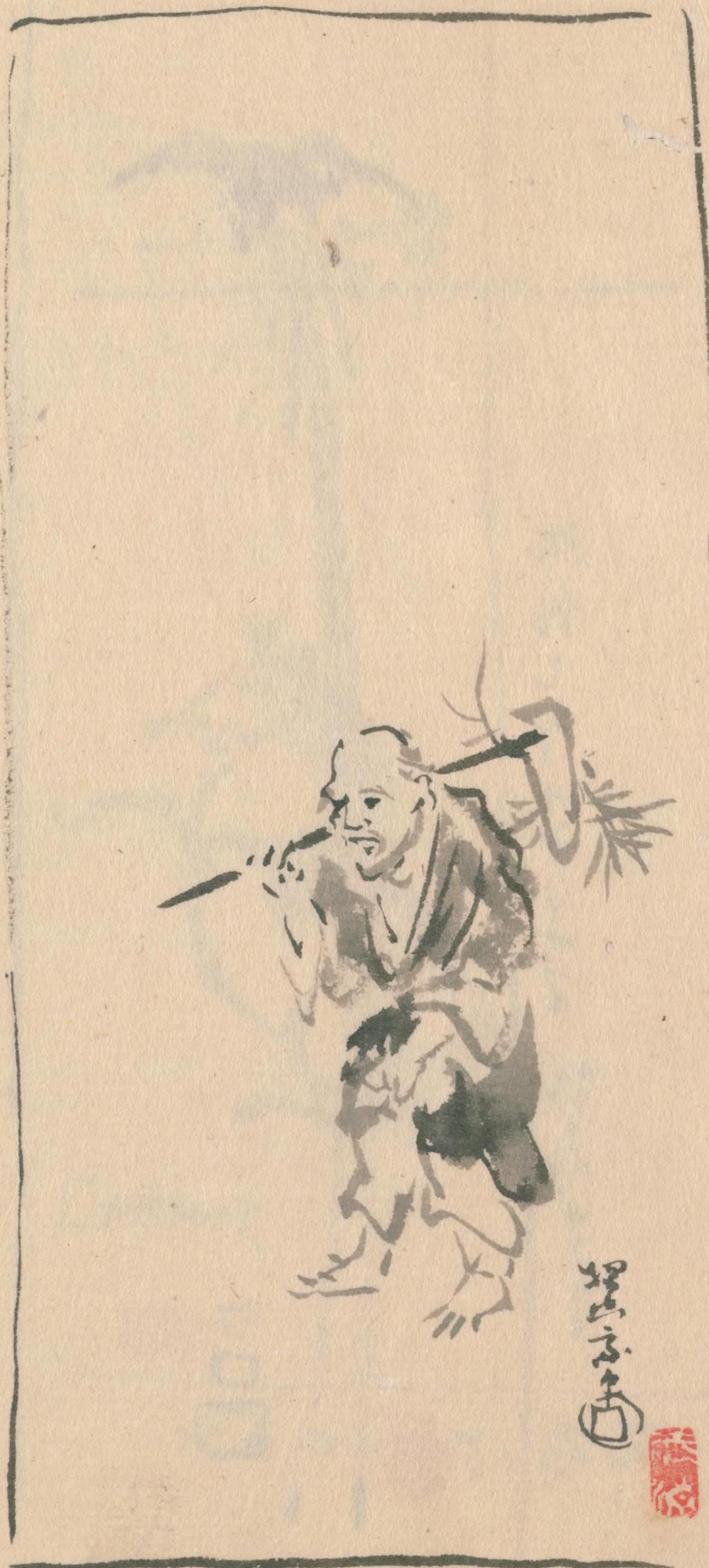
堀江屋
寛文九年十月廿九日

堀江屋



堀江屋
寛文九年十月廿九日





武清粉本
乙卯十二月廿二日
松尾海山画

松尾海山



武清粉本



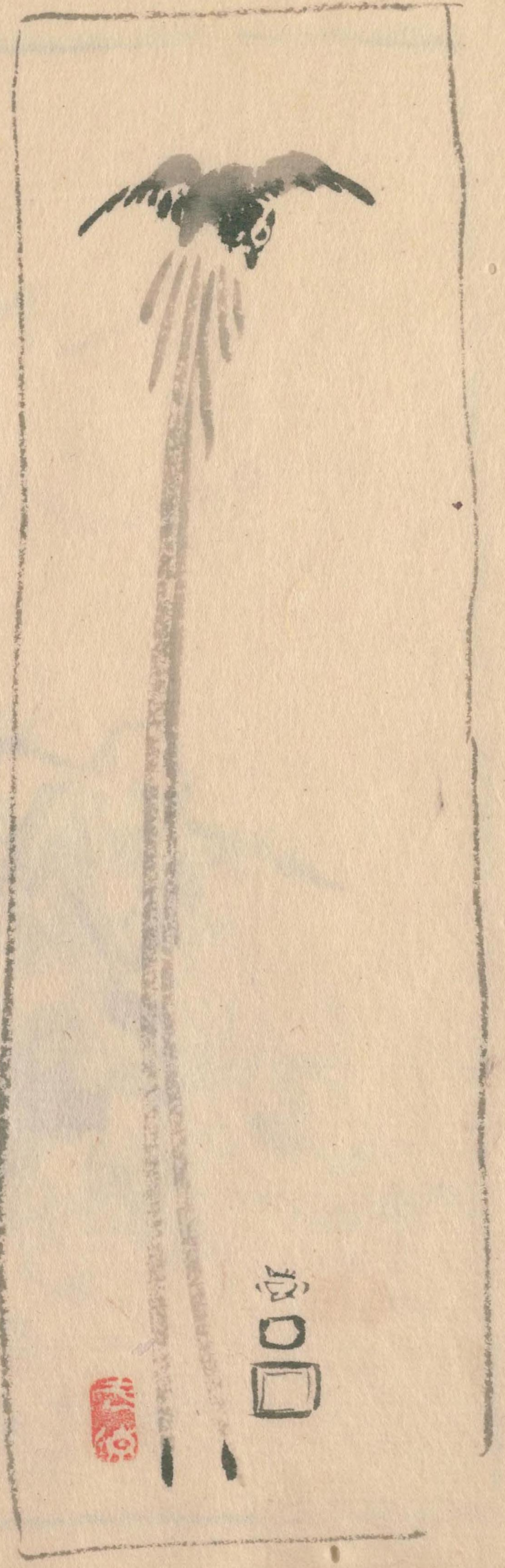


武清粉本

武清粉本

武清粉本

武清粉本



武清粉本

武清粉本

嘉定記



嘉定乃御親式給ふ所を以て是
等長年中と案とりはるるゆたなり
此れ初と元龜之年味方うけし
御陣乃好くお入の備めて書たり
十とを陽白を分嘉定淺と槍とあり
終ひ一とれと兒と甚御難戦とを在

世らまじりかどふ事或御利運此吉兆
小御等も色科あつた家抄事

先祖翁子部 はまのりともむね
とより 後につしを

六種内御等事と世をくかそ能抄
事御等と御等候御等候御等候
人等も御等事と御等候御等候

清純御等事と御等候御等候御等候

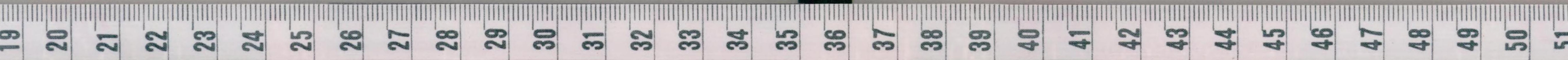
上和田事と御等事と御等候御等候

御一ハ御等事と御等候御等候御等候
はまのりともむね

あり御等事と御等候御等候御等候

製衣造したてまつりしよりはまのりともむね

泉小三代と御等事と御等候御等候御等候



きりてあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を
あそびあそびたすしと抱く年々其時を

大之保之永藏板

登壇 六月嘉定日自大之保忠記
文書計二冊綴中 〆



石辰山月十日

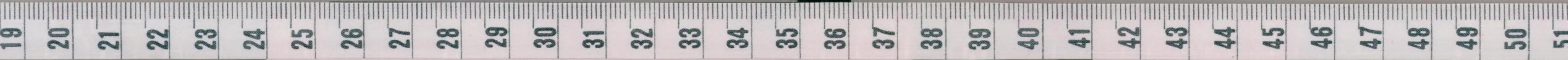
常信美
印

山王宮柳猿



脊面

安政三年二月辰山月三日





武清粉本
景石
二月十日
和歌山



楚馬

無齋筆

題

壬辰正月十八日
秋山

白石歌書

如也

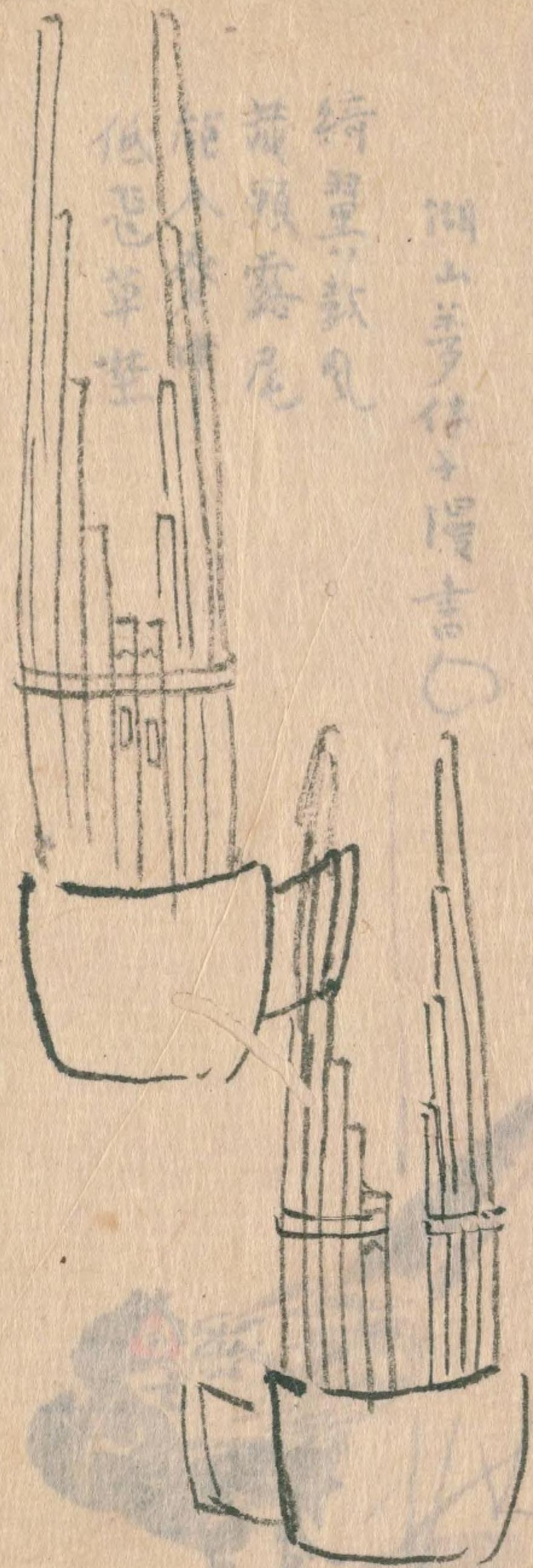
秋山

○畫本古文真寶後集

有壹藤應著

旭輝齋畫圖

嘉永三年庚戌歲正月



竹葉
竹葉
竹葉

湖山夢伴十景言

湖山夢伴十景言



綺翼、鼓尾
能入交中
低飞草茎

湖山並多伴子漫書

秋の二助不 安信 石辰二月六日



秋の石辰二月六日

秋の石辰



秋の石辰



司晨报午
不失其時
花冠綉頂
佳麗相宜

湖山夢伴子漫書〇



花ふたく野色れすく葉を
花枝のたもむきさあつて
のしん
依



御佛菩薩の
石長青月宮松花の
白



檀芝永貞西中



檀芝永貞



孤菴詩話圖 檀芝永貞

孤菴詩話 檀芝永貞



檀芝永貞





英一様画



河内石原より十町川



信原善朴筆





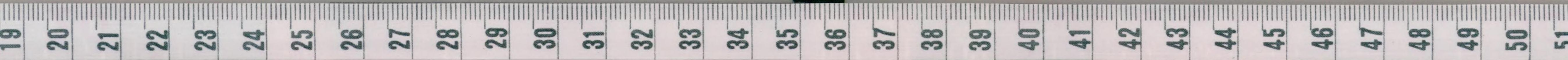
永徳元年三月十日
宗秀印あり

永徳元年
宗秀印あり



宗秀

永徳元年三月十日
宗秀印あり



日長七人歌
 下中や神の志りあり二道も出
 場さし心とちよふ代も初
 古かたのうらな



砂の石辰三舟

舟の石





之助牛

探山本法服



探山本法服

伏之助牛二年

石倉野舟在作



探山本法服



心歴之露堂令

武清粉本
宗渭漫書



武清粉本
宗渭漫書



武清粉本

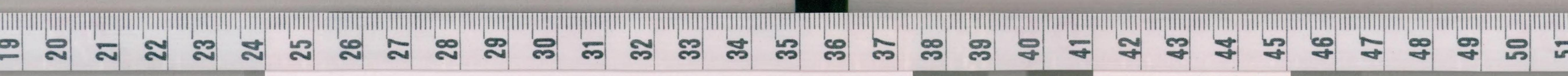


清嚴和尚墨蹟
 水磨一露亭
 六字一行真毫
 不涉異論若也
 不言
 九月四日
 花井都七郎

大徳寺芳春院一溪和尚墨書

九月遊大井川作歌

空寂布大いれ河を三船かきり布りて一は川
 さけり名き川にささちわてなれ水もあはれ
 いれれは付底をすまははる用通年を子独
 走行ぬれ船をちよりの歌其川に砂舟を塞て
 上りぬれ梁をちよりの歌其川に砂舟を塞て





清之陽のそよ風四月十日の夜に
 女老ルナ

保元元年七月廿一日

上建那子未依川信下長教未依信波
 ちのあらしの籠子とておの石あらしり
 川水よあまをそよ風吹くあらしり
 あらしめ
 大み川那のまほし秋あらしり
 ちのあらしの籠子とておの石あらしり





三物系

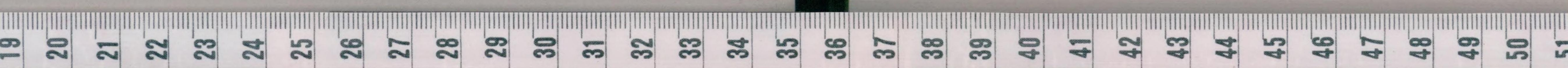
石原甲子十郎

全長五寸五分

石原甲子十郎



石原甲子十郎





海島石底冑十思抄千巻下


尚信堂


山
石底冑十思抄千巻下

石底冑十思抄千巻下
神佛
り割のしりしりしりしり

石底冑十思抄千巻下
石底冑



三田




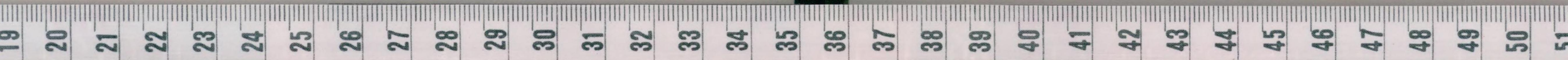


武清粉本
石辰四月十七日

八具足个因案

石辰四月十七日
箱書所細川三衛佐

野澤法藏宗滑書



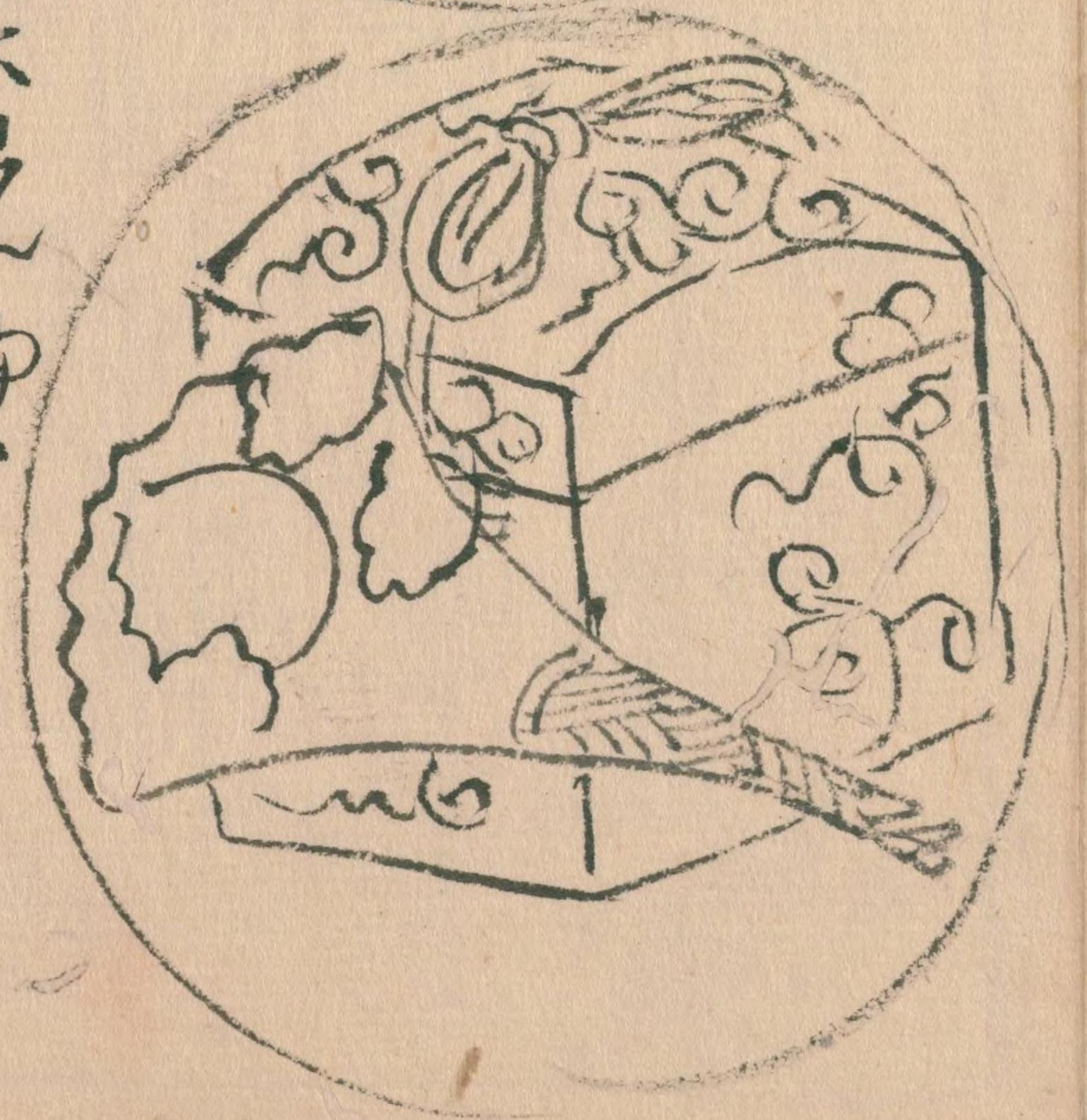


路行石居了中抄巻一七の七

武清粉本
一七の七



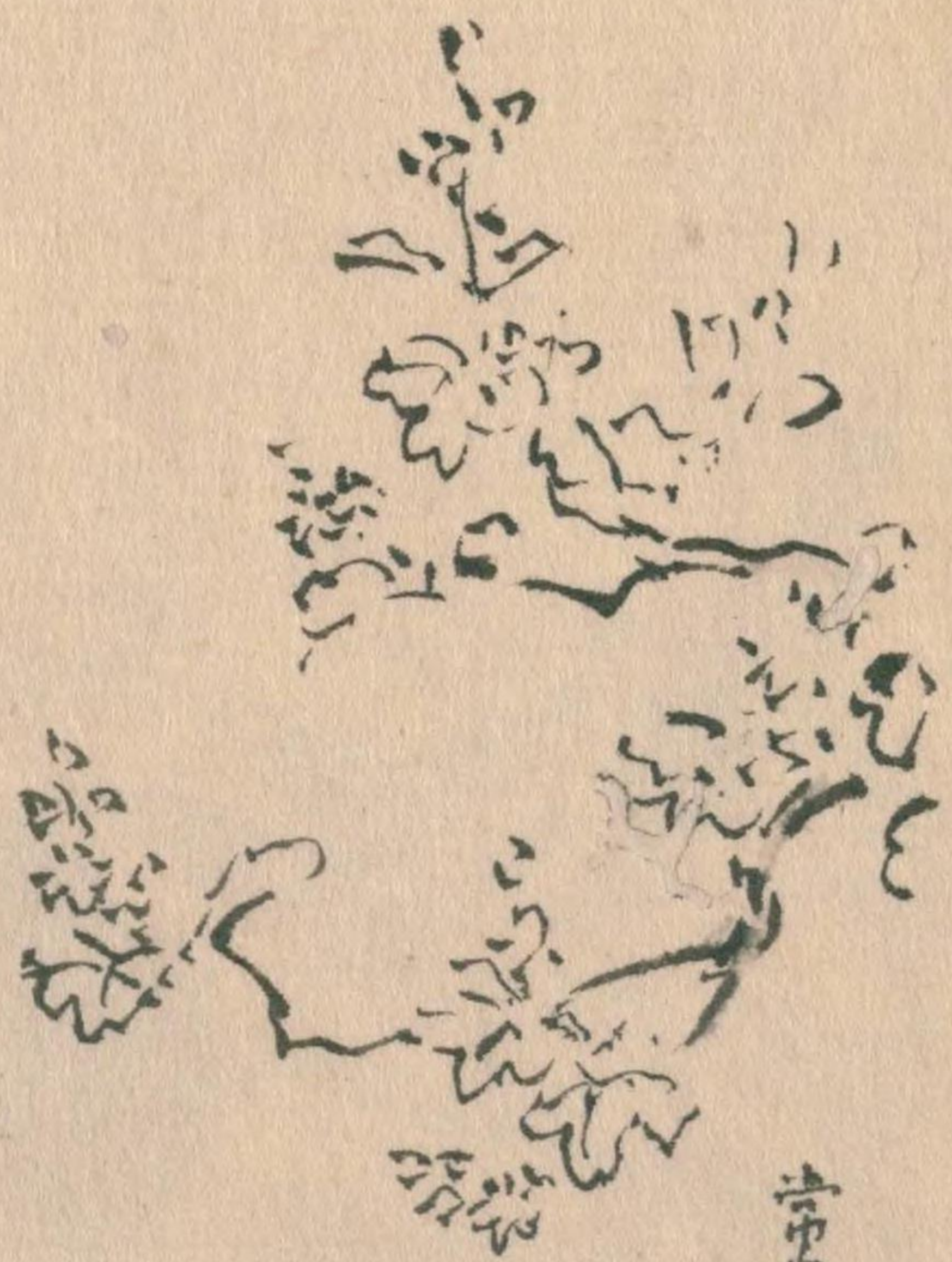
第九卷之四





常盤寺
[Red seal]

天竺の西辰四月廿二日
何物もなし



常盤寺
[Red seal]

天竺の西辰四月廿二日

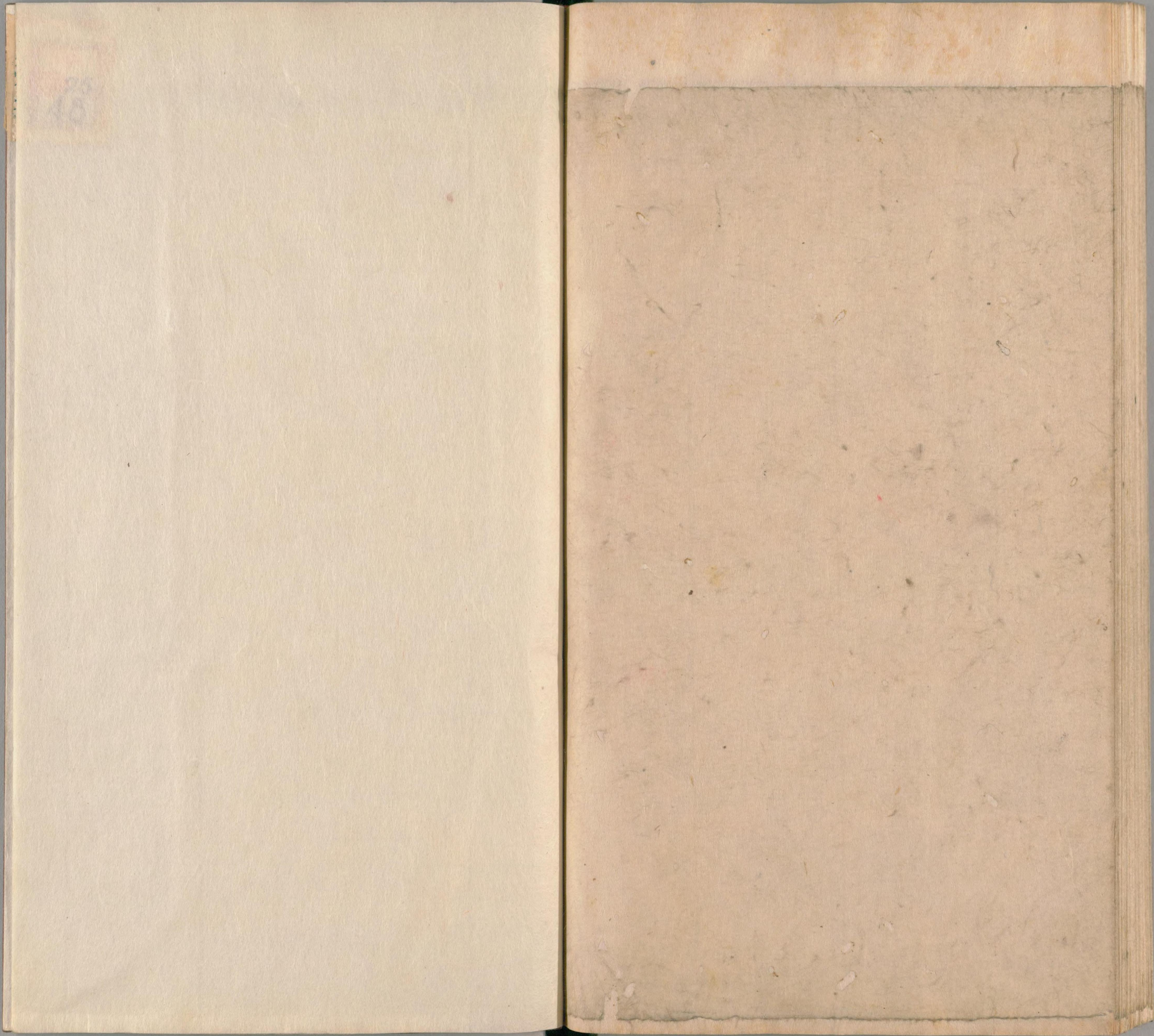
何物もなし

法明石居四身廿七
杉本宗元



法明石居





国立国会図書館

タイトル『武清粉本』 請求記号 寄別3-8-4-1

ガラス使用

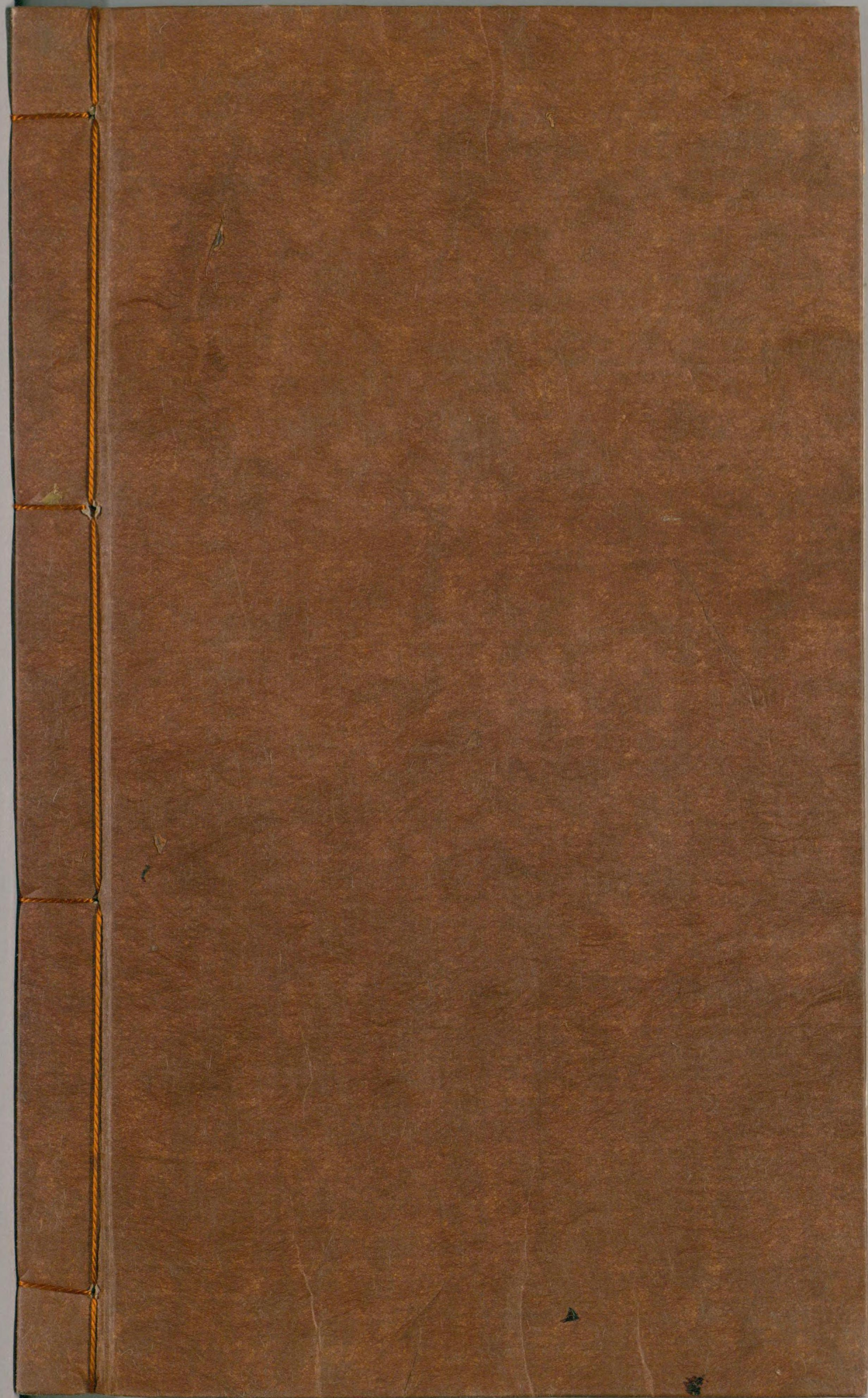
25
48



国立国会図書館

タイトル『武清粉本』 請求記号 寄別3-8-4-1

ガラス使用



国立国会図書館

タイトル『武清粉本』 請求記号 寄別3-8-4-1

ガラス使用